

## 「五十五年のサラリーマン人生」 学んだ事、実践してきた事



⑦



「マイナス要因も考え方次第で全てプラスに転じる」と話す藤井代表取締役会長  
| 県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

松浦鉄道 代表取締役会長

藤井 隆氏(76)

私は22歳で親和銀行に入り、取締役まで務めて退職した。67歳のときに県知事と佐世保市長から要請を受け松浦鉄道の会長に就任した。  
当時は鉄道の輸送人員が10年連続で減っていた。一般的な経費の削減に取り組んだが、公共交通で最も大切なことは、安全の確保だ。枕木の取り換えなど鉄道施設の整備は後回しにせず、前倒しでやってきた。そして一番の安全

対策は人間がつくる。だから人件費は逆に増やした。その上で、収益を上げるため、いかに輸送人員を増やすか考えた。特に力を入れてるのは、定期券を持たない一般利用者を増やす戦略で、「知ってもらう」「来ってもらう」「見ってもらう」乗ってきた。就任時から3年は赤字が続

# 考え方次第でプラスに

いたが、その後は黒字に転換した。輸送人員は横ばいで推移し、そのうち一般乗客数は就任時と比べ約4万5千人も増加した。松浦鉄道を知ってもらうさまざまな施策を考え、情報を発信し、テレビや新聞などで取り上げられる機会が増えた。それが乗客を増やし、経営に相乗効果を生み出した。

マイナス要因も、考え方次第で全てプラスに転じる。例えば人口減少で鉄道の乗客は減っていくと言われる。しかし、松浦鉄道に乗ったことがない人はまだまだ多い。そこには潜在的なチャンスがある。沿線には西九州自動車道の整備が計画され、鉄道と競合するという懸念も聞く。ただ、道路ができれば地域は活

性化する。そうなれば地域の鉄道にとっても必ずプラスになる。考え方で人生は大きく変わる。マイナス要因を言い訳にしてはだめだ。

この年齢で現役のサラリーマンを続けられることは本当に幸せで、運の良さは誰にも負けないと思っている。そうした運は自分の行動次第でつかまえることができる。私は人とのつながりを大切にしてきた。それが、銀行を辞めた後もありがたい仕事が多い込み、今がある。

銀行員時代、若い行員には「お金は貯蓄せず使え」と助言してきた。勉強や旅行、スポーツなどに使い、自分の頭と体に蓄えることが大切だと。若いうちは自由闊達(かつたつ)に、自分の意思をしっかり持って仕事に打ち込んでほしい。(田下寛明)  
次回(12月4日)に掲載します